

会 議 の 名 称	議員定数・報酬等検討 特 別 委 員 会 報 酬 分 科 会	開催月日・令和6年9月13日 開会時間・ 午前 ・午後2時30分 閉会時間・ 午前 ・午後3時00分
出 席 者	河崎 周平 南谷 清司 堀 隆和 藤川 貴雄 花村 隆 近藤 伸二	
欠 席 者		
オブザーバー	議長 野口 佳宏 副議長 原 一郎	
傍 聴 者		
説明のために 出席した者	藤井議会事務局長、浅井議会総務課長、堀議会総務課長補佐、 森議会総務課主任	
協 議 事 項	・現状について（県内市議会・人口同規模市議会の状況）	

	【開会＝午後 2 時 30 分】
近藤座長	ただいまから報酬分科会を開会いたします。本日の協議事項は羽島市の議員報酬の現状についてを議題といたします。検討資料につきましては、県内市議会の報酬等の比較表及び全国と同規模人口の市議会における報酬等の比較表を配付してあります。これらの資料につきましてご意見等ございましたらご発言を願います。
花村委員	この資料からは、報酬に関してはほぼ平均で、政務活動費については平均よりもかなり低いということが読み取れると思います。
近藤座長	お手元の資料を見ていただくと県内の順位が書いてありますので、例えば定数は多い順番で 21 市で 9 番目、報酬月額も 9 番目ですね。先ほど花村委員が言われましたが、政務活動費は 17 番目ですね、支給していないところもありますけど。ラスパイレス指数はちょっと悪いね、議員報酬を上げてはいけないということかな。 その他何かご意見ありますか。とりあえずご意見を聞いて、分科会をこれからどう進めるかということもご意見をいただきたいと思います。すぐに結論は出ませんので、年内ぐらいでいいですか、結論を出すのは。他の委員会のこともありますので。
野口議長	12 月議会で中間報告をしていただけるといいかなと。
近藤座長	他の委員会には議長と副議長が出られますので、アドバイスをいただきながら進めていきたいと思います。
堀委員	報酬は 9 番目でまあまあのところにあるのかなと。だけど、この分科会ではないですが政務活動費は報酬との兼ね合いで言うと、多分大垣市は報酬の中に政務活動費の分を入れてしまっているんですね。政務活動費はもう少し上げてても悪いことはないのかなと思います。
河崎委員	全国と同規模人口を見ると、議員と議長の報酬額の差というのか、議長についてはもう少し多かったりするので、そこを含めて検討するのも良いと思います。
藤川委員	この資料についての意見ということであれば、令和 5 年

南谷清司委員	12月31日時点では平均並みかなというところです。ただ、報酬等を検討していくに当たって、今後の社会情勢等も踏まえてどうしていくのかという議論も必要かと思いますので、あくまで現段階では平均という認識ですが、これに加えて、世の中の変化というものも踏まえて検討が必要なのではないかという感想を持った次第です。 この表からは議員報酬はこんなところだなと、政務活動費はちょっと少ないんだなということが読み取れます。それはそれでということだと思うんですが、先ほど藤川委員もお話のように、今インフレが進んでいますので、インフレヘッジの仕組みも何か取り入れないと、決め方としてあまりよろしくないんじゃないかなと。もちろん物価が下がれば下げる、上がれば上げるという仕組みかと思うんですが、そういう仕組みを他県、他市ではあまり聞いたことがないので、実施すると羽島市が全国初と言われるかもしれませんが、そういったことに挑戦していくのもいいんじゃないかなと思います。
近藤座長	皆さんのご意見をお聞きすると、議員の報酬については大体ランク的には妥当だけど、政務活動費についてはもう少しという意見が多かったと思います。 私が議員になったときは議員年金があって、その年金の負担部分をたしか行政と議員個人で折半して報酬から天引きされていたんですが、制度がなくなったので議員はその分は丸々もらっているんですけども、ただ、国民年金だけでは厳しいということは思います。手取りは多くなったんですけどその後の生活の保障が、細かいことまで言っても市民に受け入れられにくい話だと思いますが。 今回はこういった資料を配って意見を言っていただきましたが、今後どのように進めるのか、市民にアンケートをとるとか、市民がどういう意見を持っているのか生の声を聞くとか、我々だけで一方的に上げるということは難しい時代だと思いますので、私の提案ですがどこかで聞く機会を作るとか、そういったことで今後の進め方について何かご意見がありましたら。
花村委員	議員活動についての専門家の大学教授とかおられるし、著作もあるし、議員報酬が高いほうがいいという方もいれば、そんなに高くてはいけないという方もいると思うんですけど、著作の勉強というか専門家の書いたものを勉強して

堀委員	みる機会があってもいいかなという気がします。 市民に聞くということだけど、多分市民は議員はたくさんもらってるという意識が強いので、減らさないといけないという意見が真っ先に出てくるかと思います。その前に、花村委員が言われたようにこちらがもう少し勉強すると。だけど委員会でやっているの、市民にある程度問いかけはしないといけないかなと。問いかけはしないといけないけど、本当に妥当な市民の声が聞けるところまで、こちらが勉強するという形で進めてはどうかと思います。
河崎委員	勉強もとても大事だと思いますしそういうこともやっていきながら、マクロ経済も含めて現状の物価高騰との兼ね合いにどうやって取り組んでいくのかということも踏まえて進めていければと思います。具体的な形はまだないんですが、例えば2, 3案作って、全員協議会、特別委員会などに申し送るのがいいのかなと思います。
藤川委員	今後の進め方ですけど、定期的に分科会を開催していくことを基本方針としてほしいところです。分科会の協議内容ですが、先ほど花村委員が言われたように著作物を持ち寄って研鑽を積むこともいいと思います。 なぜ定期的な開催かと言いますと、世の中の変化がどんどん起こってくるんですね。例えば10月には最低賃金が引き上げられたり、あとは国では政策活動費を廃止するとか、いろんな変化がこれから出てくるんじゃないかと。どうなるか分かりませんがそういった変化を拾って、私たちはどうしていきましょうかという議論をするためにも、定期的に開催していくことは大事だと思います。 やっぱり一つの大きな流れが、10月の最低賃金が変わるという中での民間の給与水準が変わっていくというポイントがあると思いますので、最低賃金についての勉強会は必要ないかもしれませんが、私達の報酬についてもそのタイミングで話し合いを持つことは大事じゃないかと思います。
南谷清司委員	多方面の意見を聞くということは大事なので、市民の意見もそれはいいんですけど、例えば周辺市町の議員の意見とか、羽島市職員はちょっと言いにくいだろうから周辺市町の職員とかいろんな意見を。住民の意見だけではちょっと足りないかなと思います。

近藤座長	それでは皆さんからいろいろご意見をいただきましたので、皆さんのご都合もありますけど、最低でも月 1 回は開くと、12 月の中間報告まですぐですので。講師をお呼びするということですが、予算はないですね、自腹でやらなきゃいけないと。 座長の立場であまり自分の意見を言うてはいけませんが、先ほど花村委員から話のあった賛成反対の方の書籍を調べていただいて、この人はこういう考えですよ、ということをお委員 2 人ずつぐらいにプレゼンしてもらったらどうですか。 (「自分の意見を入れずに」と呼ぶものあり)
近藤座長	自分の意見を入れてもいいですよ、提案です。 先ほど南谷委員が他市町の議員の話聞くのも大事だということで、岐阜市は結構報酬もらってみえますが、海津市とか町会議員は報酬が低いのもっと上げてもらわないといけないという意見が多いですね。そういった意見を聞くのもいい案だと思います。
野口議長	現段階での分科会のメンバーの考えはどうなんですか。
近藤座長	花村委員からどうですか。上げるか下げるか現状維持か。
花村委員	現状が精一杯ではないかなと。上げるのは市民感情からは難しいんじゃないかと思います。
堀委員	上げたいなという希望はあります。しかし上げるとそれなりに言わなくてははいけないし、政務活動費は 8 万円で、0 円のところが大垣市と瑞穂市とかあるけれど、あとは 12 万円とか 24 万円とか、そちらで上げると勉強のために使うということで、市民に納得してもらえるかなと思います。
河崎委員	私は昨今の物価高騰を含めた社会情勢などのマクロ経済に合わせて動かすべきかなと思うので、現状であれば上げるべきかなと思っています。
藤川委員	社会情勢に応じてということが一番納得いくのではないかなと。上がりも下がりもしないことが多分一番簡単なんでしょうけど、例えば社会が上がってるときに、議員が上

南谷清司委員	がらないと本当にそれでいいのかという話で、逆に社会が下がってるのに、議員がそのままだとそれはそれで市民の不満を招くんじゃないかというところがあって、一番大事なポイントは市民に納得していただく、理解を得られるっていうのが大事なポイントだと思っています。 今、社会を見ると最低賃金を上げようという動きもありますので、今の段階では上がっていく方向が必要な視点ではあると思うんですが、逆に下がってきたとき、物価が下がるとか、世の中に变化があるときはそれに応じて議員報酬もそうしていくという考え方は必要だと思います。 報酬の水準はこれでいいのかなと思いますけれど、先ほど藤川委員と河崎委員がお話になられたように、社会の状況によってこの報酬額が低い水準になったり高い水準になったり動くわけですね。やっぱりそれをスライドさせてインフレヘッジでもデフレヘッジでもいいんですけど、スライドさせて上下させると、そういう仕組みを導入しないと、今までの物価が変わらない時代はもう終わっていますので、新しい時代に合わせた制度を構築したほうがいいだろうと、これがまず一点です。 もう一点は、私のような年代の人間にとってはこの報酬で別に十分なんですけど、子育てをしている方々にとっては、ちょっと苦しいなと思います。といっても児童手当、要するに扶養手当を作るという仕組みは簡単にはできないので難しいんですけど、そこは今、私にとっては悩ましいところです。
近藤座長	それでは皆様のご意見を聞きまして、まだ全く結論を出す段階ではありませんので、もう一度この表をじっくり見ていただいて、それから全国の類似団体の報酬とかを参考にさせていただいて、次回まで結論を出さずにもう一度皆さんから、ざっくばらんな意見を出していただく会にしたいと思いますが、よろしいですか。 (異議なし)
近藤座長	議長、副議長からご意見ありましたら。
野口議長	ざっくばらんに議論していただいて全然構わないと思いますし、定額制から変動制にするのか否かということですけど、そういったことも今日、一つの提案だったと思うの

	で、深掘りしていくのはありかなと思ってますし、実際、全ての議会が定額制でしょ。本当にこれからいろいろ調べて調査する必要があると思うんですけど、地方議会が変動制にできるのかどうかといったことも含めて議論していければいいと思ってますし、現段階での議論の推移を見ていくと変動制はともかくとして、下げるってことはないですよ。 現状維持でいくのか否かというところなので、これは報酬の分科会ですけど、来週から政務活動費と定数の分科会も始まってくるので、そちらでまたもちろん出席をして、また皆さんに私からもご報告しつつ、議会として12月に中間報告をして、市民にもこういう議論をしていますと、透明性を持って報告をしていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。
原副議長	議員になって10年になりますが、この議論は初めてでして、幅広く集約してやるべきかなと思っていまして、先ほど座長から昔は年金制度があったという話がありました。南谷委員が言われましたけど子育て世代が退職金もなく年金も少ないというところで、若い人材を入れるには、その部分も配慮が必要かなと前々から思っていて、ただ民意もありますので、しっかり議論を深めて進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
近藤座長	ご意見ありがとうございます。それでは次回ですけどもいつがよろしいですか。10月7日に全員協議会ありますが、その後でもいいですか。 (異議なし)
近藤座長	ではこの日で、時間は未定ですけど、全員協議会の後に広報広聴委員会がありますから、その後ということで。本日の分科会は終了いたします。ご苦労さまでした。 【閉会＝午後3時00分】